

平成 30 年度第 1 回 成田市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

1 開催日時

平成 30 年 10 月 15 日（月） 午後 2 時～午後 3 時 30 分

2 開催場所

成田市花崎町 760 番地
成田市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

3 出席者

(委員)

関根座長、小川委員、相馬代理、森竹委員、佐藤委員、濱野委員、西留委員、
大橋委員、宮崎委員、吉高委員、肥田委員

(事務局)

企画政策部 宮田部長
企画政策課 米本課長、西宮課長補佐、平野主幹、青菜主任主事、中村主任主事

4 議事（要旨）

○KPI の進捗状況について

- ・「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で設定している数値目標や重要業績評価指標（KPI）等の各種指標の進捗状況及び増減理由等について説明を行った。

5 質疑等

□対目標年の達成率が 90%台と高い数値なのに、巡航速度比が「△」となっている項目があるのは何故か。

→達成率は平成 31 年度の目標値に対する実績値の割合で表されており、項目によっては基準値の時点で高い達成率となる。一方で、巡航速度比は基準値と目標値の差を年割りにして算出しており、達成率が高くても巡航速度比の基準に達していなければ、「△」が表示される。

□農業イベントの参加者数など、実績値が低く、目標値とかい離している項目があるが、目標値の変更は行わないのか。

→観光入込客数のように数値が順調に伸びている一部の項目については、目標値を引き上げるなど、これまでにも修正を行っている。目標の下方修正となると慎重な判断が必要だが、今回の会議でご意見を伺い、修正した方がよいという結論になれば、次回の会議

で事務局案として提示させていただきたい。なお、農業イベントについては、屋外で開催することも多く、天候の影響を受けやすいため、指標として妥当かどうかといった点も含めて検討を行ってまいりたい。

□「雇用の場が確保されていると思う市民割合」の項目について、成田市の数値は他市や県と比較して高いのか。

→市で独自に行っているアンケートの結果であり、他市で同様の調査を行っているかは不明だが、成田市は県内でも有効求人倍率が高く、雇用の場としては高い水準にあると考えている。後ほど、他市町村で同様の調査を行っているかどうかを確認し、次回の会議において報告させていただきたい。

□観光入込客数には、市内に観光に来た方だけでなく、空港のみを利用した方も含まれているのか。また、外国人は含まれているのか。

→市内施設等に照会を行い、実際に成田市内に観光に来た方を集計している。また、外国人も含まれた数字である。

□人口減少を食い止めるためには、成田市に住みたいと思う人が増えて、合計特殊出生率が上昇することが重要だと考える。事務局からの「子育て世帯の流入を図る必要がある」との説明に同意するが、それに向けて現在行っている対策や、今後実施を検討している取組み等があれば伺いたい。

→現在行っている施策としては、子育て環境を整えるための保育園の整備や、保育士確保のための「なりた手当」の支給、子育て情報を提供する専用ホームページを開設しているほか、本年4月には「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊産婦への支援体制を整えたところである。ご指摘のとおり、子どもを増やしていくことが重要であるので、今後も子育てに関する新たな施策を打ち出していきたいと考えている。

□不妊治療の件数は増えているのか。また、助成額はいくらなのか。

→晩婚化の影響もあり、不妊治療の件数は増えている。本市では10万円を上限として助成を行っており、千葉県でも助成を実施している。

□一部指標データの出所となっている市民アンケートの概要は。

→18歳以上の市民2,000名を無作為抽出し、調査票の郵送により、実施しているものである。

□本会議の本来的な趣旨は、市として地方創生を推進していくために何が必要か、委員から意見を募るものと認識している。指標はあくまで結果であるので、今年度何をやって

いくのか、特に市が力を入れている取組みなどがあれば、内容を伺いたい。また、次回以降の会議については、今年度実施した取組みなどを発表していただき、それに対する委員の意見を伺い、それらを加味して進めていく、というやり方もあり得ると思うので、ご検討いただきたい。

→市が行っている取組みとしては、「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に具体的な事業が記載されており、これらを実施していくことで、指標を向上させることを目指している。現在、総合計画の進捗管理の中で新たな事業の実施について検討しているため、本日の会議でいただいた意見をもとに、次回の会議において市としての事業案を示したいと考えている。

□今後は市としての重点的な取組みを紹介するとともに、各委員から企業・団体としての取組みを紹介いただき、これからどのように進めていくのがよいか、意見を募る場としていただきたい。

□3歳未満を対象とした小規模保育がほぼ満員になっていると聞いたが、子どもが3歳になった後の受け入れ先はあるのか。

→ニュータウン内の保育園を大規模改修する際の一時的な代替施設としていた赤坂保育園について、小規模保育からの子どもを受け入れられるよう、連携施設として存続させることで、受け入れ枠の確保に努めている。

小規模保育は受け皿となる保育園との提携を結ぶ必要があるが、定員等の問題により難しい状況である。受け入れ枠を更に増やすため、市では現在、特区の制度を利用することで、3歳以降も継続して預かることができるよう、申請に向けた準備を進めている。

□犯罪発生件数について、平成31年度の目標値が29年度の実績値より高くなっているのはなぜか。

→犯罪発生件数が順調に減少した結果、総合戦略策定時に設定した平成31年度の目標値よりも、29年度の実績が低くなったことによる。

□国を挙げて外国人労働者の活用を推進している中、成田市においてもホームページの英語版を作成してはどうか。日本語に不慣れな外国人労働者が、生活に密接した手続や医療、税関係の情報だけでも入手しやすくなれば、雇用者にとっても有益だと考える。

→市のホームページは現在、外国語自動翻訳サービスを利用することで、多言語表示ができるようになっている。しかし、外国人向けの専用のページは作成していないことから、今後の検討課題とさせていただきたい。

つい先日、日本語に不慣れな外国人を雇用している事業者から、納税通知書等の多言語対応を求める意見が寄せられたところである。納税通知書を他言語で作成することは難

しいが、自動翻訳が可能なホームページのアドレスを記載した案内文を同封することなどを検討しており、生活全般とまではいかないものの、税に関しては現在そのように取り組んでいる。

□人口 1 万人当たりの犯罪発生件数について、107 件というのは他と比較して低い方なのか。そうであれば、その要因は何か。人口が増えているのに犯罪が減っている点は素晴らしいと思うので、他よりも安全な場所であれば、それも 1 つのセールスポイントになるのでは。

→駅前等における防犯カメラの設置や駅前番所の設置、青色パトロールカーや自治体等の自主防犯組織による巡回の効果で、犯罪件数が減っていると思われる。他市との比較については、今後調査し、次回の会議で情報提供をさせていただきたい。

●意見交換

□実績値が目標値を大きく上回っている項目や、目標値と実績値がかい離している項目について、次回の会議では、目標値が変更された状態で提示されるのか。

→先ほどもご意見をいただいていることから、修正を検討し、次回の会議で事務局案として提示させていただきたい。中には一時的に達成された項目もあるかと思われるので、変更の妥当性について判断したうえで、事務局案に反映させてまいりたい。

□雇用に関する情報提供だが、成田エリアは有効求人倍率が非常に高い地域で、この一年間では 1.3 前後で推移している。しかし、建設・運輸・介護・警備等の人手不足の業界において、うまくマッチングできていないことが倍率を跳ね上げている側面があり、例えば、建設分野においては 265 件の求人に対して求職者が 32 名と、8 倍以上の開きが出ている状況である。求職者の性質も変化してきており、現在は 65 歳以上の方が 20% 超、転職目的の在職者が 20% ほどで、今すぐにでも働きたい人は減っている。また、最近の若者は交代勤務を嫌う傾向にあり、空港関連企業を希望する人が少なくなっていることから、地元就職のメリットなどを伝えることで就職を促している。

なお、マザーズコーナー利用者の就職件数について、今年度当初から 10 月 11 日までの数字を調べたところ、市民の就職件数は 75 件であった。このことから、平成 30 年度中に 150 件前後の市民の就職が可能と考えられ、平成 31 年度には累計で最低でも 900 件近くになり、目標としている 802 件は達成できる見込みである。

□成田市には現在、10,000 室近い宿泊施設の客室があると思われるが、13 万人の人口に対してそれだけの規模があるエリアは、日本全国でもそう多くはない。とにかく客室の清掃が追い付かない状況は避けなくてはならないため、多くのホテルで客室清掃を外部委託しているが、今やどこの清掃会社も外国人労働者で占められ、こういった方を含め

での労働力確保が、喫緊の課題となっている。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが迫っており、書き入れ時だと期待している一方で、運営に係るボランティアが10数万人レベルで求められていることから、若者だけでなくシニア層まで応募するとなると、パートやアルバイトが成田エリアでも減少するのではないかと心配している。

□現時点で、保育園の待機児童は何人いるのか。待機児童数が0との発表がなされれば、それを受けて働こうと考える母親が増えるのではないかと考えており、業界としても労働力の確保に繋がると期待している。

→10月1日時点で、保育園の待機児童数は17名である。本市の待機児童は、昨年7月に一旦0名となったが、数は変動し続けるため、今後も減らしていくために尽力したい。

□外国人労働者だけでは人手不足を補えないため、各企業努力に任せるのではなく、市として支援を検討していただきたい。省力化・効率化が必要になると思うので、自動運転の特許使用にあたっての規制緩和や、投資に対する税制面でのサポートなど、企業と連携して行っていただきたい。

→人手不足に対しては、まちづくりという面で、住宅地がないため増やしたらどうかといった調査を行ったり、インフラ面において、道路を整備して利便性を高めることで住みよさを向上させることに力を入れており、そういったことで人が集まりやすい環境を作っていきたいと考えている。

□マナーが悪い外国人の話を報道などで耳にするが、成田市での印象はどうか。もし問題があるということであれば、マナーについての講習など、何か対策等をしているのか伺いたい。

→参道沿いの飲食店で外国人の客が朝まで騒いでおり、何とかしてほしい、という要望は1件だけ聞いたことがあるが、その他にはこれと聞いていない。

□宿泊施設においては、国が違えば常識が違うので、例えばロビーの端同士で大声で会話を行っているようなケースなど、今後も細かいところを注意していくしかないと考えている。物を持ち帰ったり破壊したりといった犯罪めいた事例はないが、空港周辺の歩道のない道路を横断するようなことが度々あるので、歩道等を整備していただいた方が良いのでは。